

イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。



第一三共の現況と成長戦略

コーポレートコミュニケーション部
IRグループ 玉木 和彦

日時：2019年9月10日（火）

将来の見通しに関する注意事項

本書において当社が開示する経営戦略・計画、業績予想、将来の予測や方針に関する情報、研究開発に関する情報等につきましては、全て将来を見込んだ見解です。これらの情報は、開示時点で当社が入手している情報に基づく一定の前提・仮定及び将来の予測等を基礎に当社が判断したものであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。従いまして、実際の当社の業績は、当社の見解や開示内容から大きくかい離する可能性があることをご留意願います。また、本書において当初設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。なお、実際の結果等にかかわらず、当社は本書の日付以降において、本書に記述された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有していません。

本書において当社が開示する開発中の化合物は治験薬であり、開発中の適応症治療薬としてFDA等の規制当局によって承認されてはおりません。これらの化合物は、対象地域においてまだ有効性と安全性が確立されておらず、開発中の適応症で市販されることを保証するものではありません。

当社は、本書に記載された内容について合理的な注意を払うよう努めておりますが、記載された情報の内容の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について、当社は何ら保証するものではありません。また、本書に記載されている当社グループ以外の企業・団体その他に係る情報は、公開情報等を用いて作成ないし記載したものであり、かかる情報の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について当社は独自の検証を行っておらず、また、これを何ら保証するものではありません。

本書に記載の情報は、今後予告なく変更されることがあります。従いまして、本書又は本書に記載の情報の利用については、他の方法により入手した情報とも照合し、利用者の判断においてご利用ください。

本書は、米国又は日本国内外を問わず、いかなる証券についての取得申込みの勧誘又は販売の申込みではありません。

本書は投資家判断の参考となる情報の公開のみを目的としており、投資に関する最終決定はご自身の責任においてご判断ください。

当社は、本書に記載された情報の誤り等によって生じた損害について一切責任を負うものではありません。

1. 医薬品業界について

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略

4. 株主還元方針



1. 医薬品業界について

2. 第一三共の現況

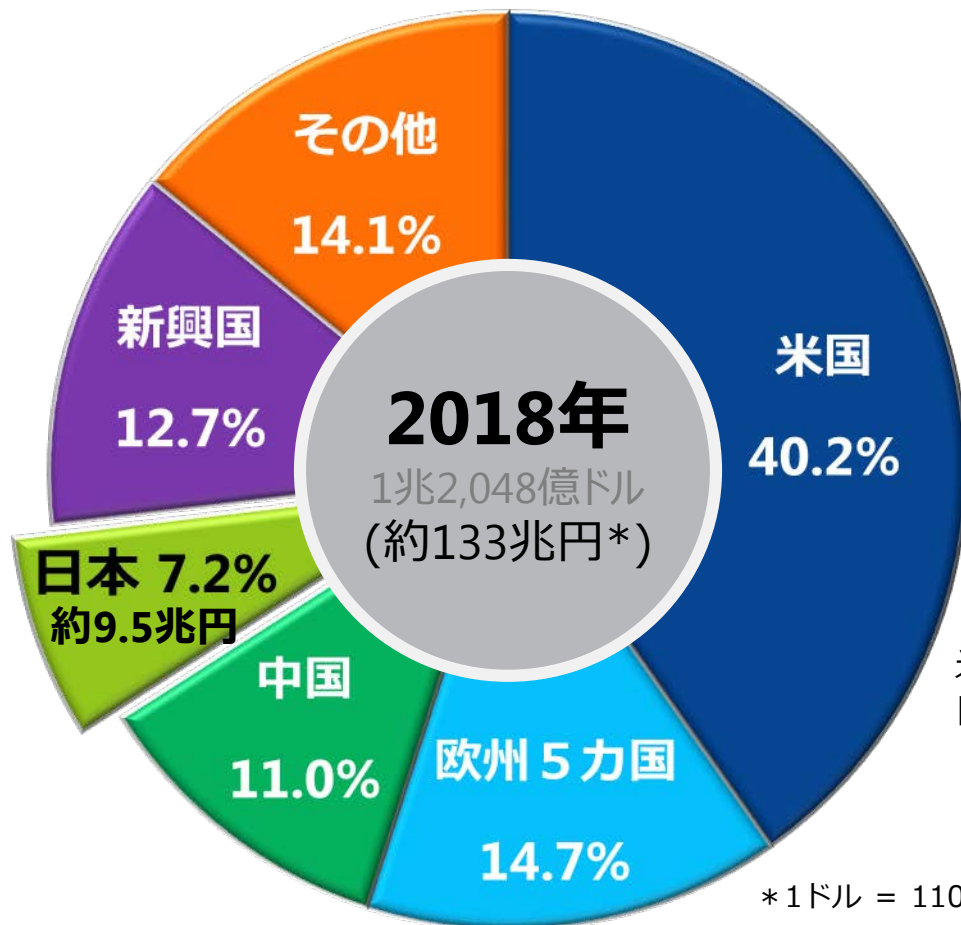
3. 第一三共の成長戦略

4. 株主還元方針



世界の医薬品市場（2018年）

地域別売上高シェア



年平均成長率2014-2018

米国	+7.2%
欧州5カ国	+4.7%
中国	+7.6%
日本	+1.0%

欧州5カ国： ドイツ、フランス、イタリア、英国、スペイン

新興国： ブラジル、インド、ロシア、アルゼンチン、アルジェリア、バングラデシュ、チリ、コロンビア、エジプト、インドネシア、カザフスタン、メキシコ、ナイジェリア、パキスタン、フィリピン、ポーランド、サウジアラビア、南アフリカ、タイ、トルコ、ベトナム

出典： The Global Use of Medicine in 2019 and Outlook to 2023 (January 2019) IQVIA Market Prognosis, Sep 2018 をもとに作成

著作権： Copyright © 2019 IQVIA. 無断転載禁止

医薬品

金額ベース
約90%

医療用医薬品

- ・ 医師の処方箋が必要
- ・ 公定価格（薬価）

金額ベース
約10%

OTC医薬品等

- ・ 一般用医薬品や配置用家庭薬など
- ・ 薬局やドラッグストアなどで購入可能
- ・ テレビなどで個別製品の宣伝が可能

金額ベース
約90%

新薬

（イノベティブ医薬品）

満たされていない医療ニーズの充足

- ・ 独占販売期間が認められている

金額ベース
約10% (数量では74.0%*)

後発医薬品

（ジェネリック医薬品）

医療費の抑制

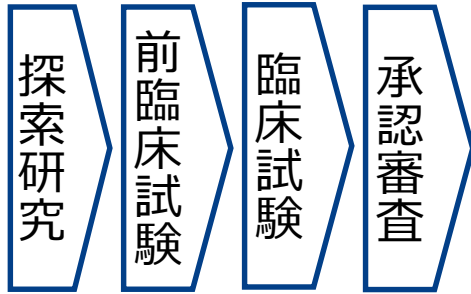
- ・ 独占販売期間が過ぎた後に発売
（新薬の半値以下）

* 日本ジェネリック製薬協会2018年度の数量シェア：「後発医薬品」 / (「後発医薬品のある先発医薬品」 + 「後発医薬品」)

製薬企業のビジネスモデル

特許権存続期間 (20年) + 延長 (最長5年)

独占販売期間満了
ジェネリック医薬品発売



独占販売期間

ジェネリック医薬品

(売上)

パテントクリフ
(特許の崖)

新薬が発売されるまでには

開発期間

9~16年

開発費用

数百億~1千億円超

新薬となる化合物

およそ 1/25,000

ジェネリック医薬品

開発期間

3~4年

開発費用

数億円

売上の推移
(イメージ)

(期間)

1. 医薬品業界について

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略

4. 株主還元方針



会社概要：第一三共株式会社

事業内容 医薬品などの製造販売

本社 東京都中央区日本橋本町

会長 中山 讓治

社長 兼 CEO 眞鍋 淳



眞鍋CEO

中山会長

設立 2005年9月

連結売上収益 9,297億円（2019年3月期）

証券コード 4568（東証一部） 株式売買単位 100株

企業理念

革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する

サイエンス & テクノロジー

創薬型企业として長年引き継がれてきた強力な

- **研究開発のDNA**
- 先進的医薬品を創出する
- 高い自社創薬技術

日本でのプレゼンス

- 医療用医薬品売上収益
3年連続 1位
- MR評価 7年連続 1位
- 多様な医療ニーズに対応する
4 事業展開

グローバル組織・人材

- 世界の英知を結集した
グローバル経営体制
- 豊富な
グローバルタレント



創薬型企业として長年引き継がれてきた強力な 研究開発のDNA

1899

三共



高峰譲吉博士

1915

第一製薬



慶松勝左衛門博士

1989

高コレステロール
血症治療剤

メバロチン



一般名：プラバスタチン

2002

高血圧症治療剤

オルメテック



一般名：オルメサルタン

1993

合成抗菌剤

クラビット



一般名：レボフロキサシン

第一三共

抗血小板剤

2009 エフィエント



一般名：プラスグレル

2011

抗凝固剤

リクシアナ



一般名：エドキサバン

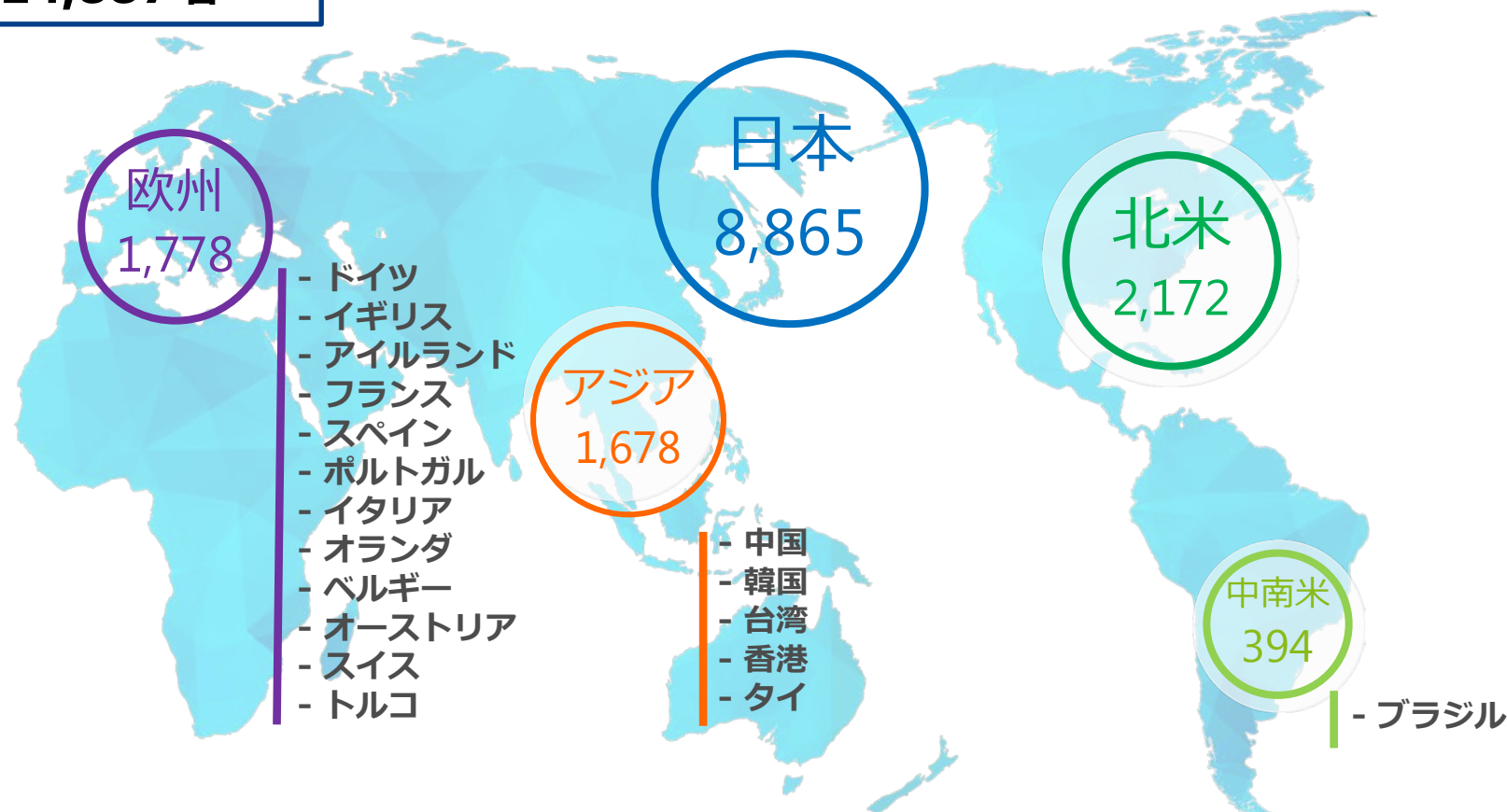
従業員と拠点（2019年3月末）

グローバル組織・人材



グループ従業員数

14,887名



グループ会社数

51社

拠点展開国

24カ国

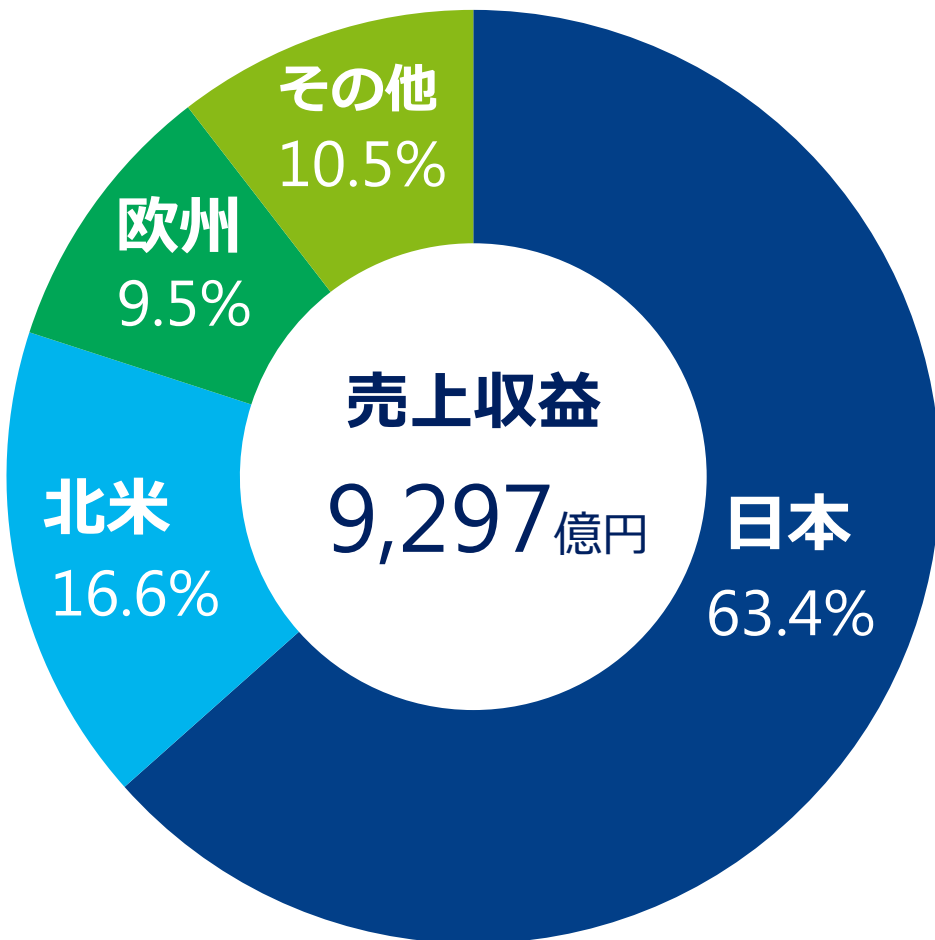
研究開発拠点

8カ国 14拠点

製造拠点

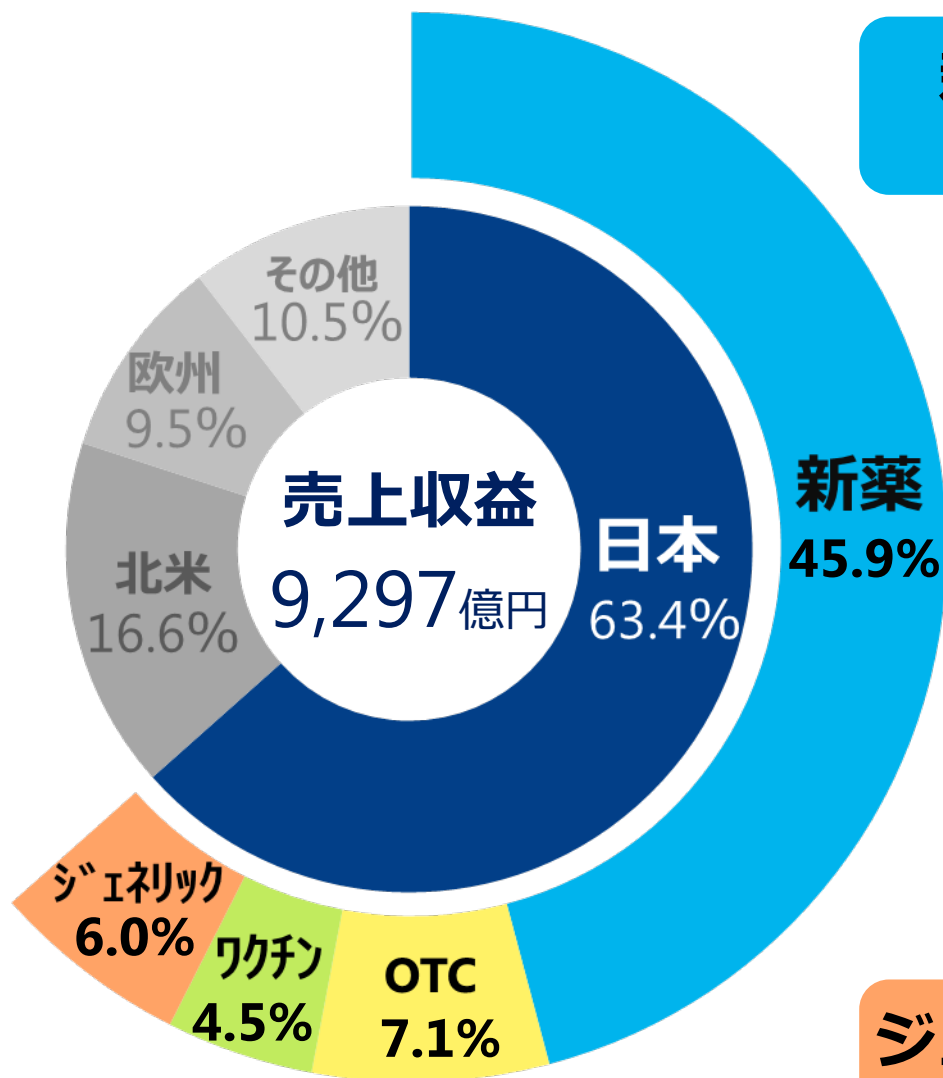
6カ国 14拠点

2018年度の連結業績



売上収益	9,297億円	100%
売上原価	3,646億円	39.2%
販売費・一般管理費	2,777億円	29.9%
研究開発費	2,037億円	21.9%
営業利益	837億円	9.0%
税引前利益	858億円	9.2%
当期利益 (親会社帰属)	934億円	10.0%

純資産	総資産	自己資本比率	ROE
1兆2,497億円	2兆881億円	59.8%	7.8%



新薬 (4,263億円)
～第一三共～

OTC医薬品 (664億円)
～第一三共ヘルスケア～

ワクチン (415億円)
～第一三共～

ジェネリック (555億円)
～第一三共エスファ～

抗凝固剤

リクシアナ

一般名：エドキサバン



649億円
(グローバル：1,177億円)

高血圧症治療剤

オルメテック

一般名：オルメサルタン



149億円
(グローバル：1,059億円#)

抗血小板剤

エフィエント

一般名：プラスグレル



139億円
(グローバル：232億円*)

抗潰瘍剤

ネキシウム

一般名：エソメプラゾール



783億円

アルツハイマー型認知症治療剤

メマリー

一般名：メマンチン



502億円

2型糖尿病治療剤

テネリア

一般名：テネリグリプチン



253億円

骨粗鬆症治療剤

プラリア

一般名：デノスマブ



274億円

がん骨転移による骨病変治療剤

ランマーク

一般名：デノスマブ



164億円

第一三共ヘルスケア製品 (OTC医薬品等)

日本でのプレゼンス



新ルルAゴールド
DX



ロキソニンS



テープ / テーブル



パップ / ゲル

痛い の 痛い の
ロキソニンS



ロキソニンS
プレミアム



トランシーノ®
ホワイトCクリア



シミひとつない肌は、
最強の武器。



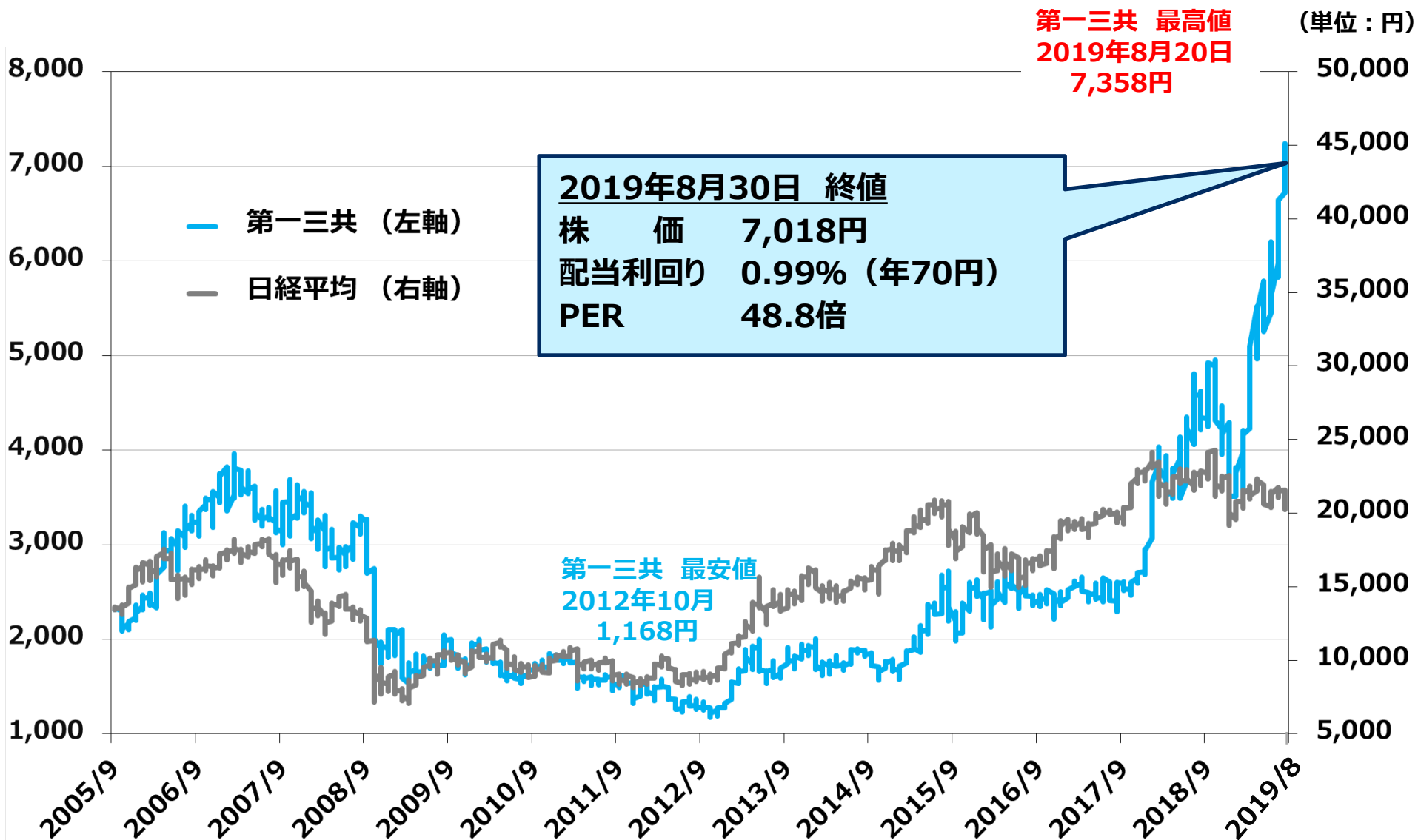
ブレスラボ



クリンデンタル®



株価推移



1. 医薬品業界について

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略

2025年ビジョン

第4期中期経営計画 (6つの戦略目標)

4. 株主還元方針



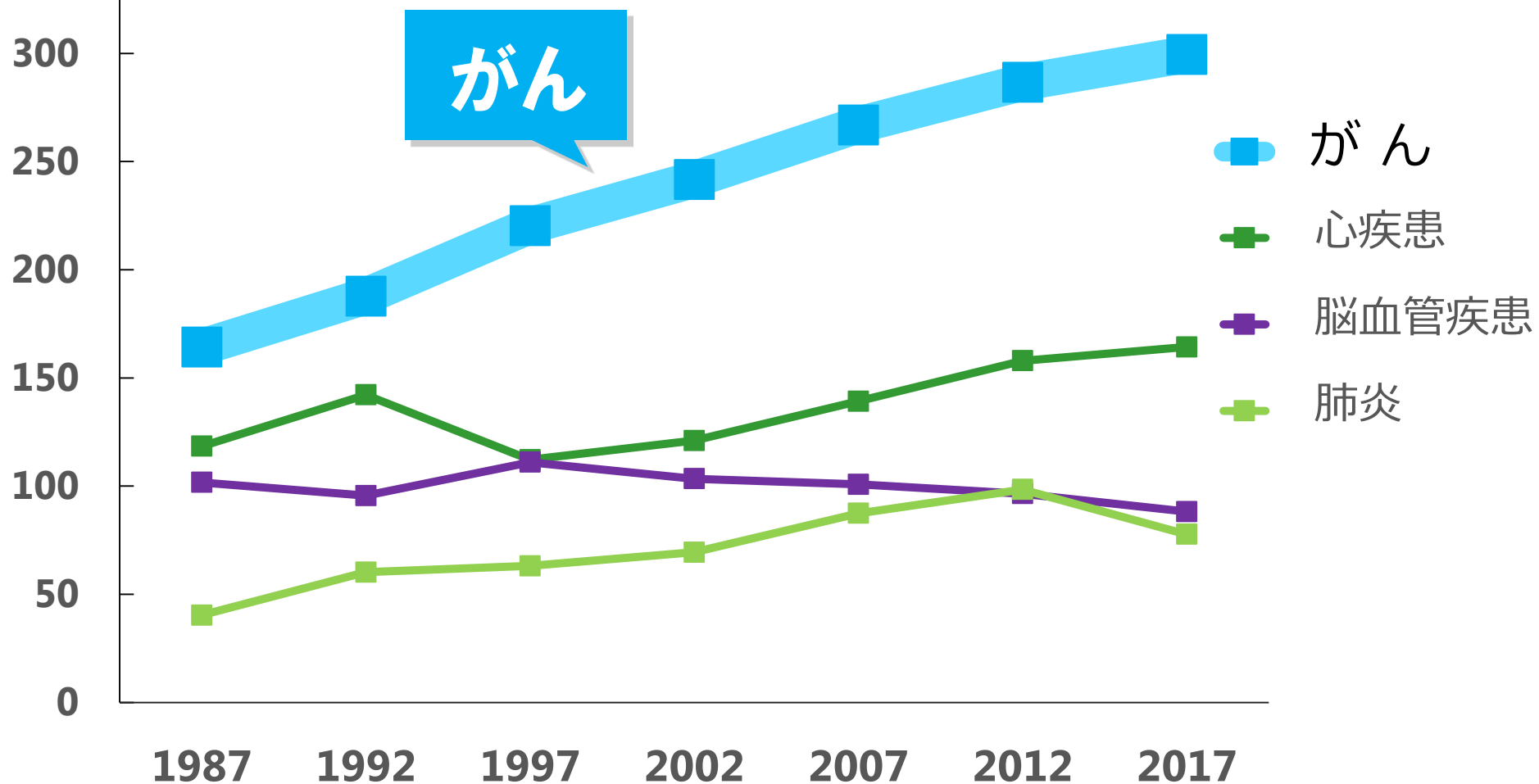
がん**に強みを持つ** 先進的グローバル創薬企業

- **がん事業を中心とするスペシャルティ領域での事業が中核**
(病院・専門医で処方される医薬品)
- **各国市場に適合したリージョナルバリュー製品が豊富**
(各地域の事業戦略に適合した製品)
- **SOCを変革する先進的な製品・パイプラインが充実**
(スタンダードオブケア = 現在の医学では最善とされ、広く用いられている治療法)
- **効率的な経営による高い株主価値**

主要死因別死亡率の年次推移（日本）

(対人口10万人)

350 (人)



2025年ビジョン

がんが強みを持つ
先進的グローバル創薬企業

転換

Transformation

2015年以前

- 循環器事業
- PCP領域*中心
- グローバル製品
- 自前主義
- 売上規模

* プライマリケア医（総合医）で主に処方される医薬品

エドキサバンの成長


日本No.1カンパニーとして成長

米国事業の拡大

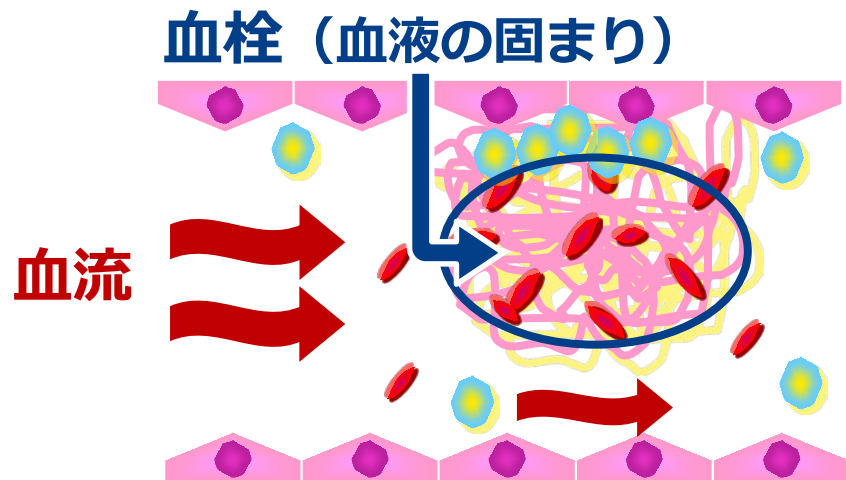
がん事業の立上げ・確立

SOC*を変革する
先進的医薬品の継続的創出

利益創出力の強化

 : 本日本話する内容

*スタンダードオブケア=現在の医学では最善とされ、
広く用いられている治療法



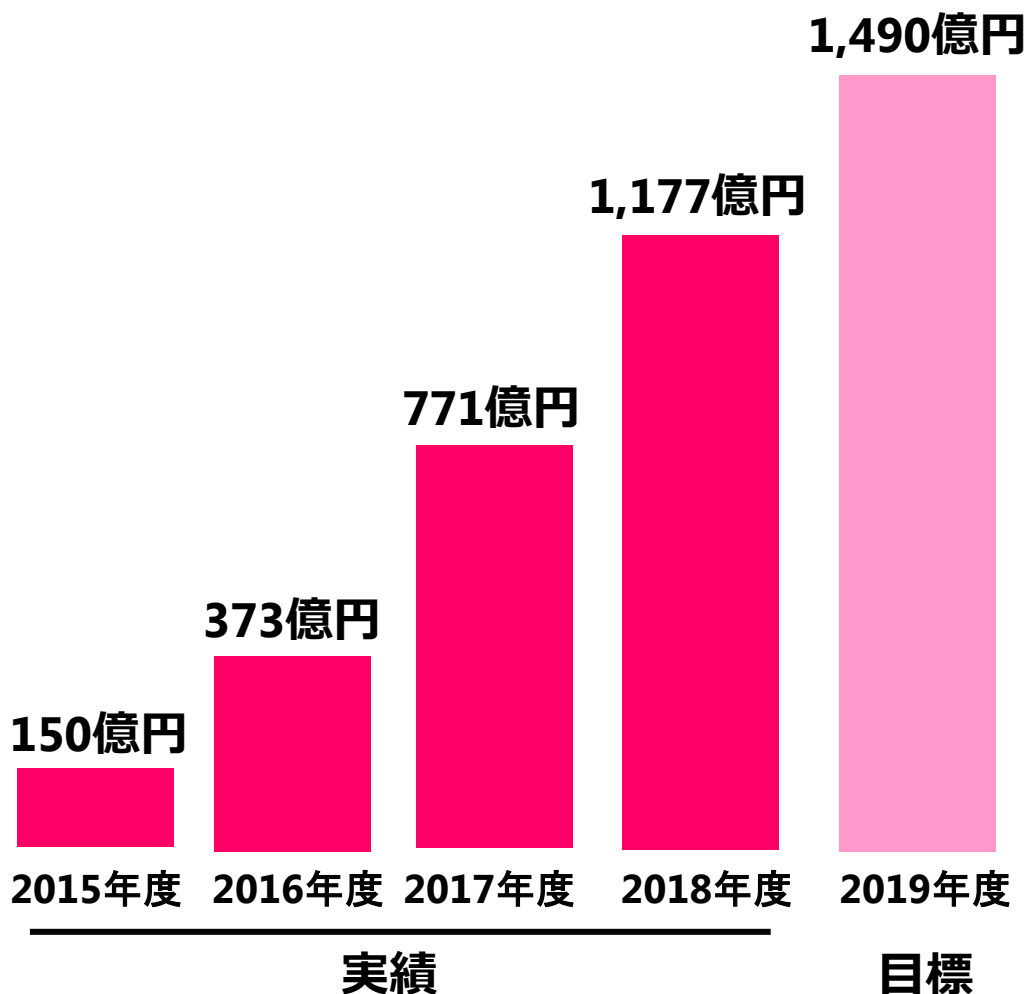
1日1回投与の
利便性と
高い安全性の両立

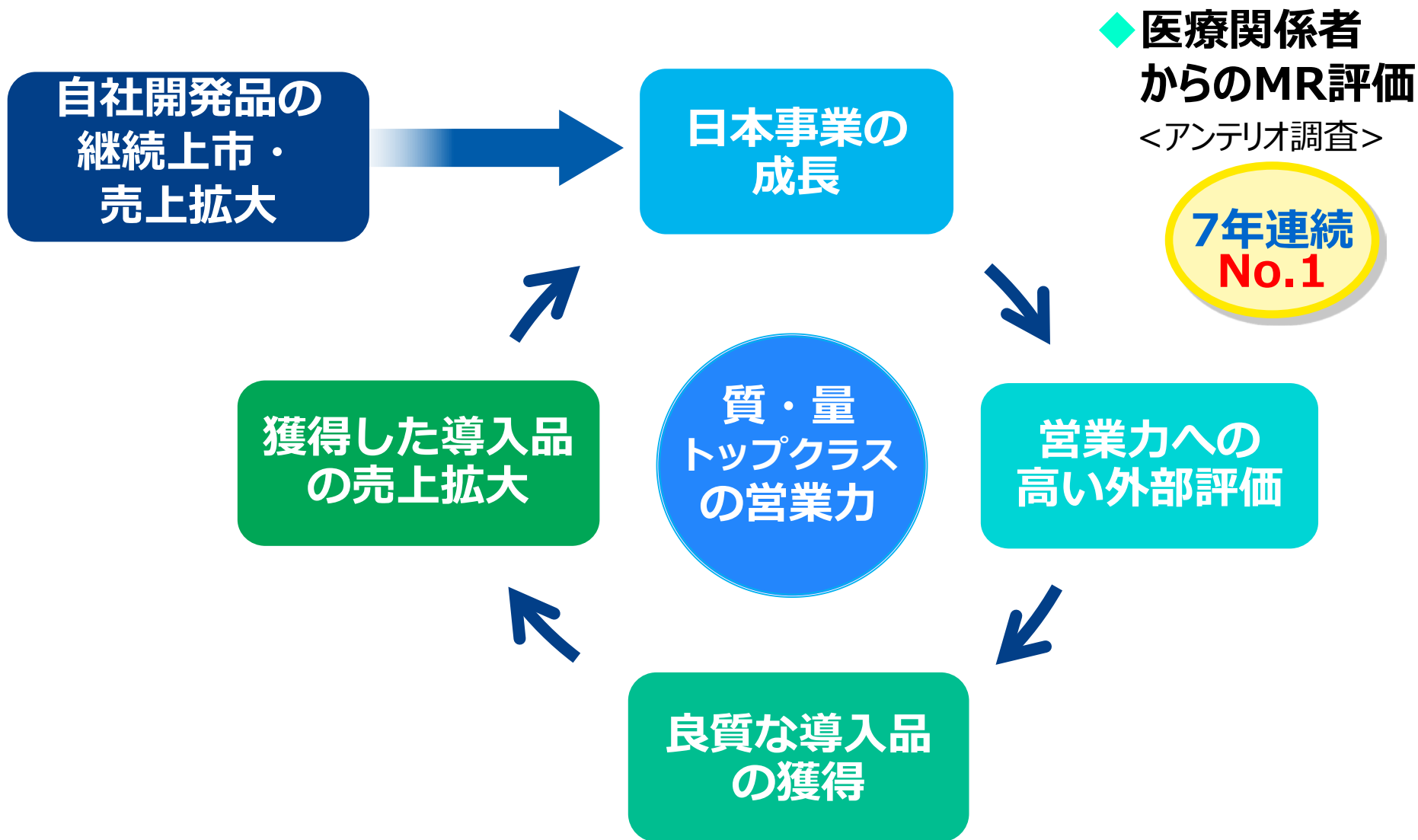
- 心房細動による脳梗塞等の予防
- 肺塞栓症や、エコノミークラス症候群の治療・予防

エドキサバン：売上収益の目標と進捗

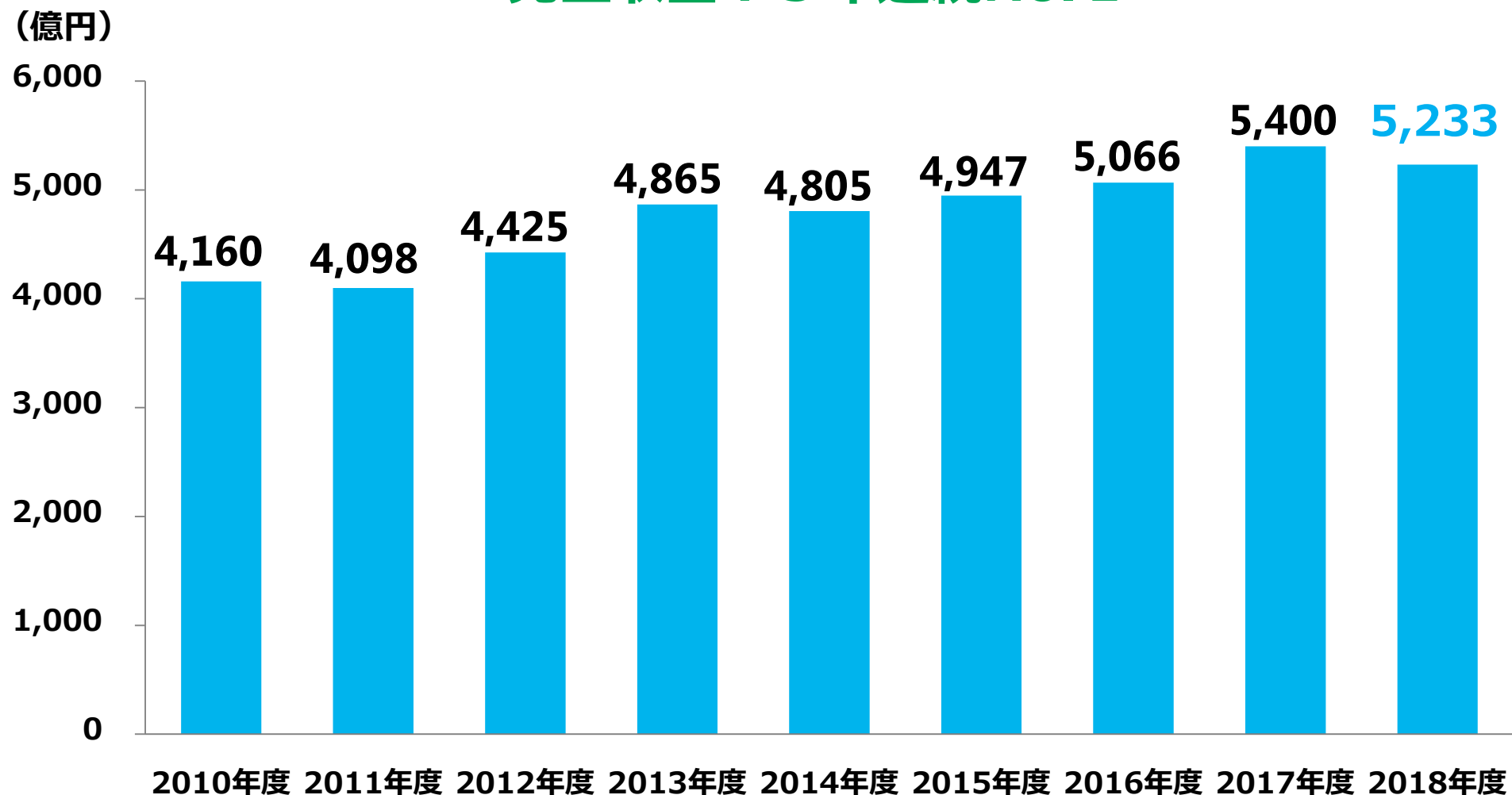
①エドキサバン

- ◆ 昨年度実績：中計目標（2020年度/1,200億円）に接近
- ◆ 今年度、更なる拡大を目指す





売上収益：3年連続No.1



* 新薬、ワクチン、ジェネリックの売上収益合計

疼痛治療剤タリージェ

2019年4月 発売



高血圧症治療剤ミネブロ

2019年5月 発売



抗悪性腫瘍剤/ FLT3阻害剤

ヴァンフリタ

2019年6月 承認取得

- ◆ 効能・効果
再発又は難治性のFLT3-ITD変異陽性の急性骨髄性白血病



抗インフルエンザウイルス剤

イナビル・ネブライザー*用製剤

2019年6月 承認取得

*薬液を霧状にして口や鼻から吸収させる装置



抗体薬物複合体
(ADC)
フランチャイズ

3

急性骨髄性白血病
(AML)
フランチャイズ

3

ブレイクスルー・
サイエンス

1

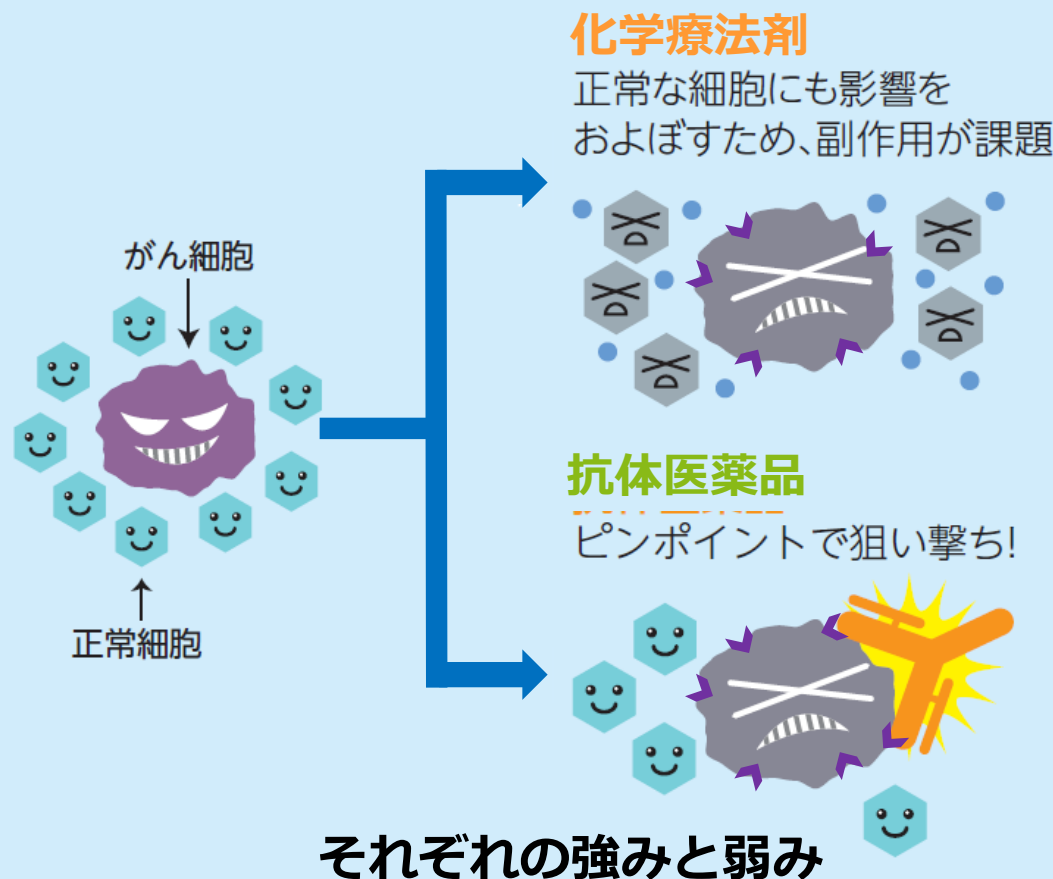
2025年までに 7つの革新的新薬の上市を目指す

AMLフランチャイズ

- ・キザルチニブ（製品名：ヴァンプリタ）
2019年6月 日本で承認取得
再発性/難治性のFLT3-ITD変異のあるAML

ブレイクスルー・サイエンス

- ・ペキシダルチニブ（製品名：TURALIO）
2019年8月 米国で発売・欧州で承認申請中
手術が推奨されない腱滑膜巨細胞腫 (TGCT)



化学療法剤

- ・強力な薬効
- ・標的への選択性が低い
- ・副作用に問題がある

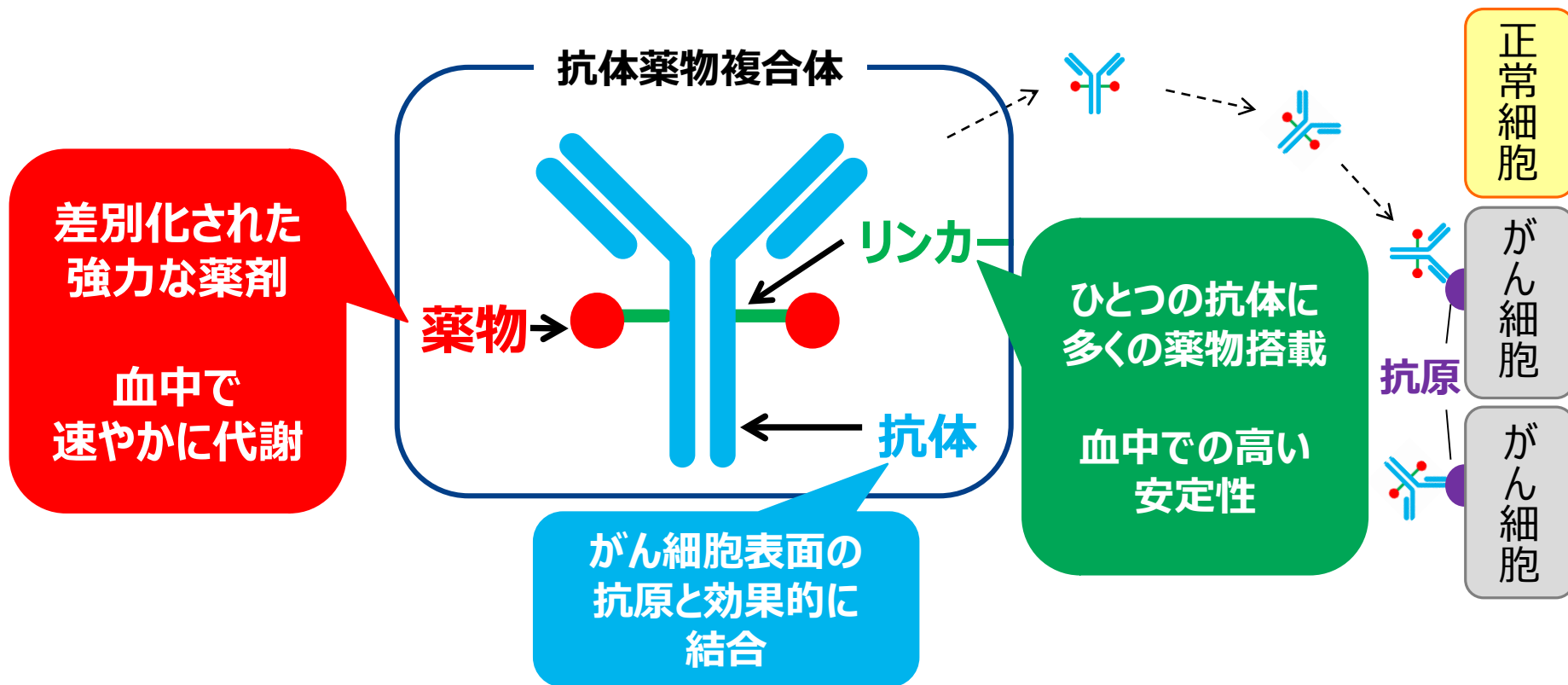


抗体医薬品

- ・標的への選択性が高い
- ・比較的副作用が少ない
- ・薬効が不十分な場合がある

抗体薬物複合体 (ADC) : 両剤の強みを活かしつつ、弱みを補完

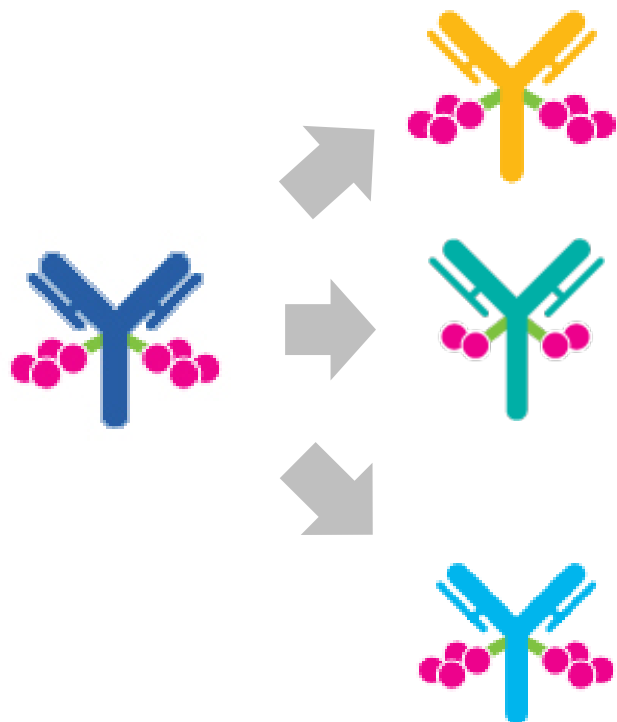
第一三共独自の技術



抗体を替えることで、異なる抗原を発現する がん を狙ったADCに展開可能

抗体薬物複合体 (ADC) パイプライン

- ◆ 第一三共のADC技術は様々な抗体と組み合わせることが可能
- ◆ 開発品は 7つに拡大

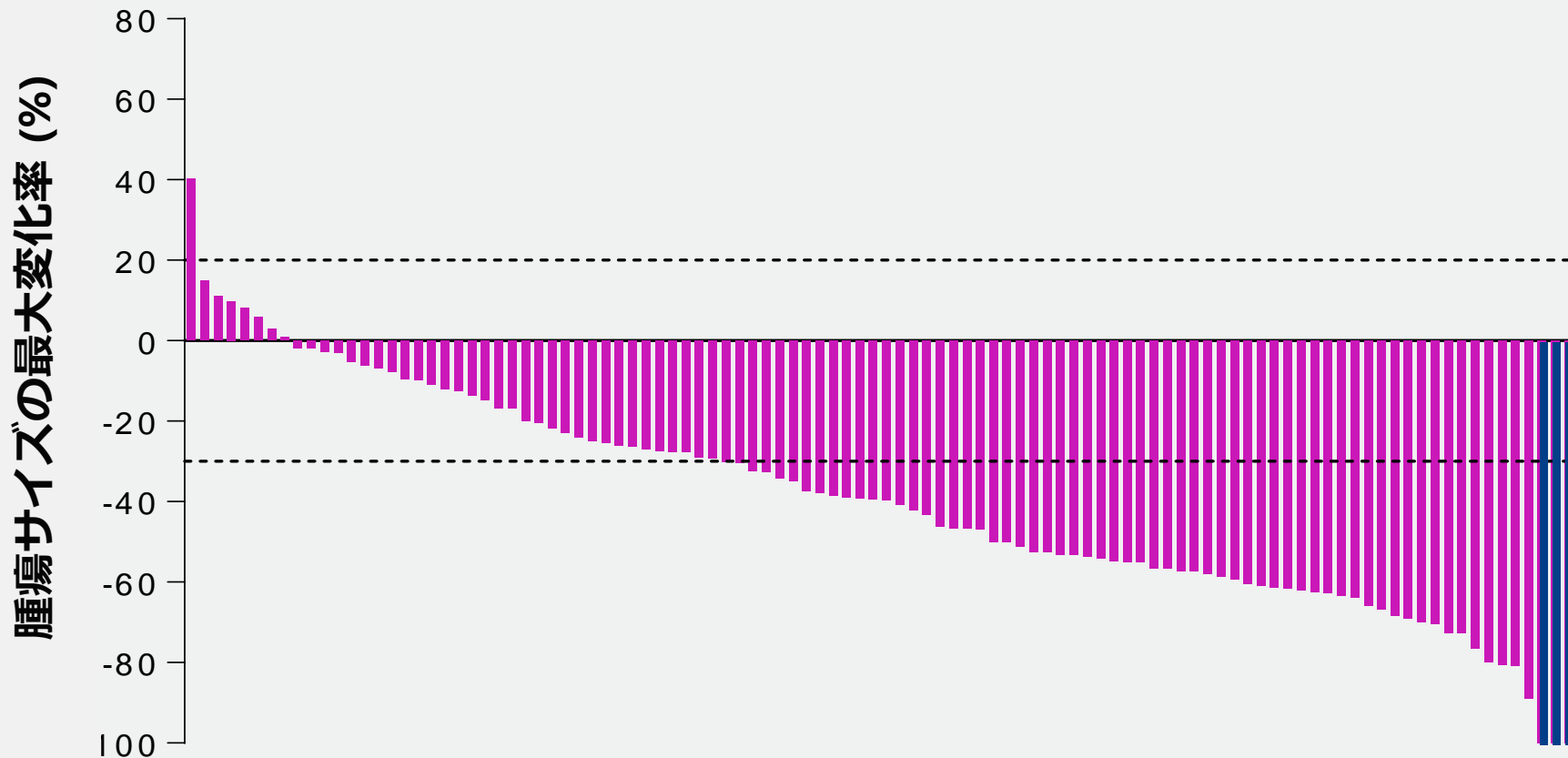


プロジェクト (標的抗原)	可能性のある 適応症
DS-8201* (HER2)	乳がん、胃がん、 大腸がん、肺がん
U3-1402* (HER3)	乳がん、肺がん
DS-1062* (TROP2)	肺がん
DS-7300 (B7-H3)	固形がん
DS-6157 (GPR20)	消化管間質のがん
DS-6000 (非開示)	腎臓がん 卵巣がん
プロジェクト名未定 (TA-MUC1)	固形がん

* 臨床段階にあるプロジェクト 2019年8月現在

Note: 本書において当社が開示する開発中の化合物は治験薬であり、開発中の適応症治療薬としてFDA等の規制当局によって承認されてはおりません。
これらの化合物は、対象地域においてまだ有効性と安全性が確立されておらず、開発中の適応症で市販されることを保証するものではありません。

投与量 5.4 または 6.4mg/kg



N=104

≥1スキャン実施患者を含む。点線は腫瘍サイズの20%増、30%減をそれぞれ示す。

* 確認済み症例は、≥2 スキャン実施患者、病態悪化、2度目のスキャン以前に何らかの理由で投与中止した患者を含む。

標準治療薬

一次治療

トラスツズマブ
+ペルツズマブ
+化学療法剤

二次治療

T-DM1

三次治療

主治医が選択

標準治療薬

一次治療

トラスツズマブ
+ペルツズマブ
+化学療法剤

二次治療

T-DM1

三次治療

主治医が選択

DS-8201
HER2陽性乳がん
二次治療 適応

**DESTINY-Breast03**
(試験名称)

DS-8201
HER2陽性乳がん
三次治療 適応

**DESTINY-Breast01**
(試験名称)



DESTINY-Breast01

欧州

2020年度
上半期申請

推定審査期間：
申請後
12カ月


日本

2019年度
下半期申請

推定審査期間：
申請後
最大12カ月

米国

2019年度
上半期申請

推定審査期間：
 申請受理後
6カ月



画期的治療薬指定

転移性乳がんの
患者さんにおける割合

HER2
陽性

約20%

HER2
低発現

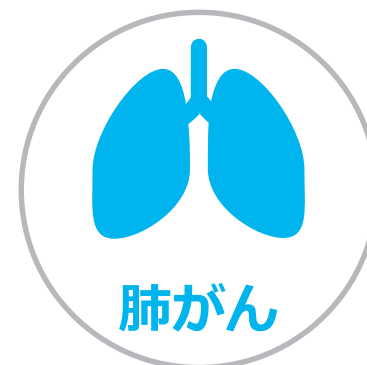
約40%



DESTINY-Breast04

DS-8201
HER2低発現
乳がん

その他がん種



先駆け審査指定
(日本)

併用



DS-8201



免疫チェックポイント阻害剤
ニボルマブ
(製品名：オプジーボ)

アストラゼネカ社 (本社：英国ケンブリッジ)



第一三共株式会社



AstraZeneca 

- 契約期間：DS-8201の販売終了時まで

DS-8201に関する共同開発および共同販売



- **開発**：開発費用を両社で折半

- **販売**：

日本を除く地域：両社が共同販促し、損益を折半
日本：当社が単独販売、アストラゼネカ社にロイヤリティを支払

最大で総額 7,590億円*

契約一時金

1,485億円

- ・独占販売期間を踏まえて複数年度に亘り売上収益として繰延計上

**開発マイルストーン等
(最大)**

4,180億円

- ・各がん種、適応症の承認取得時に受領
- ・独占販売期間を踏まえて複数年度に亘り売上収益として繰延計上

**販売マイルストーン
(最大)**

1,925億円

- ・達成年度に一括で売上収益として計上

(*1ドル=110円換算)

DS-8201の開発および商業化の加速

■ 早期市場浸透

- ▶ 欧米での市場浸透の加速
- ▶ 日米欧以外での早期発売

■ 開発加速・拡大

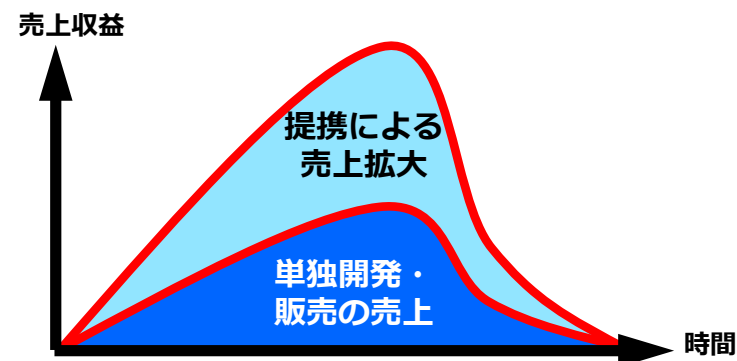
- ▶ 開発計画の前倒し
- ▶ がん種、適応症のさらなる拡大

DS-8201の製品価値を最大化

■ 自社単独の場合より価値を増加

- ▶ 提携による売上拡大
- ▶ 契約一時金や各種マイルストンの対価受領

DS-8201の売上拡大（イメージ）



DS-8201 : 試験計画

④がん事業
DS-8201



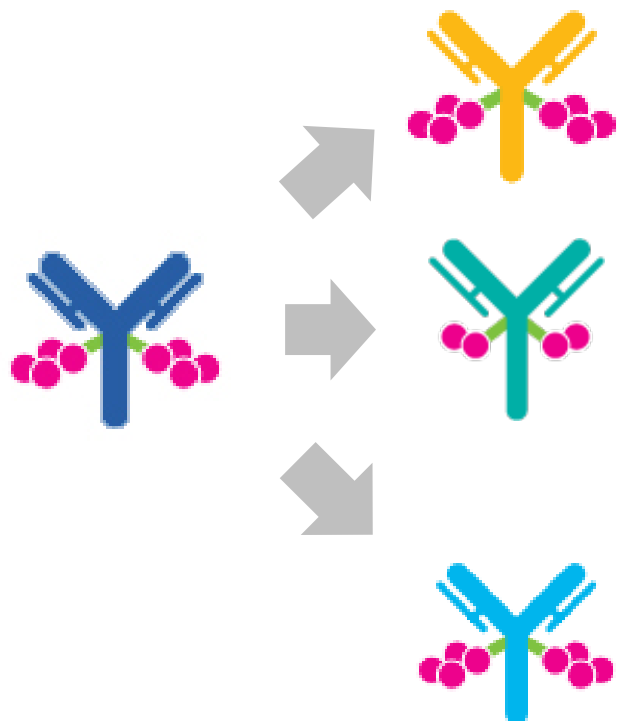
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
複数がん種	P1 (=フェーズ1)				
乳がん (グローバル)	HER2陽性 乳がんT-DM1既治療 申請用 P2	DESTINY-Breast01			
		HER2陽性 乳がんT-DM1既治療 vs 医師選択治療 P3	DESTINY-Breast02		
		HER2陽性 乳がん vs T-DM1 P3		DESTINY-Breast03	
		HER2低発現 乳がん P3		DESTINY-Breast04	
胃がん (グローバル)	HER2発現 胃がん 3rdライン vs 医師選択治療 申請用 P2 (日亜)		HER2発現 胃がん 2ndライン vs 標準治療 P3 (日亜)		
		HER2発現 胃がん P2 (米欧)			
大腸がん 肺がん (グローバル)	大腸がん P2				
	非小細胞肺がん P2				
併用	乳がん・膀胱がん ニボルマブ併用 P1b				
		乳がん・非小細胞肺がん ペムブロリズマブ併用 P1b			
		固形がん CPI併用 P1b			
		固形がん TKI併用 P1b			

抗体薬物複合体 (ADC) パイプライン **【再掲】**

④がん事業



- ◆ 第一三共のADC技術は様々な抗体と組み合わせることが可能
- ◆ 開発品は 7つに拡大



プロジェクト (標的抗原)	可能性のある 適応症
DS-8201* (HER2)	乳がん、胃がん、 大腸がん、肺がん
U3-1402* (HER3)	乳がん、肺がん
DS-1062* (TROP2)	肺がん
DS-7300 (B7-H3)	固形がん
DS-6157 (GPR20)	消化管間質のがん
DS-6000 (非開示)	腎臓がん 卵巣がん
プロジェクト名未定 (TA-MUC1)	固形がん

* 臨床段階にあるプロジェクト 2019年8月現在

Note: 本書において当社が開示する開発中の化合物は治験薬であり、開発中の適応症治療薬としてFDA等の規制当局によって承認されてはおりません。
これらの化合物は、対象地域においてまだ有効性と安全性が確立されておらず、開発中の適応症で市販されることを保証するものではありません。



U3-1402 (HER3 ADC)

- 乳がんのフェーズ1試験が進行中
 - 初期データを国際学会で発表 (2018 ASCO, SABCS 2018)
 - DS-8201の初期データと類似したデータ
- 肺がんのフェーズ1試験が進行中
 - 初期データを米国臨床腫瘍学会で発表 (2019 ASCO)



DS-1062 (TROP2 ADC)

- 肺がんのフェーズ1試験が進行中
 - 初期データを米国臨床腫瘍学会で発表 (2019 ASCO)



DS-7300 (B7-H3 ADC)

DS-6157 (GPR20 ADC)

- フェーズ1試験を2019年度中に開始予定

2022年度目標

- 売上収益 **1兆1,000億円**
- 営業利益 **1,650億円**
- ROE **8.0%以上**
- 後期開発パイプラインの価値向上

ピーク時の期待売上収益合計：**5,000億円以上**



第一三共株式会社

+

AstraZeneca



見直し中

1. 医薬品業界について

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略

4. 株主還元方針



株主還元方針：2016～2022年度



	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 予定
配当	70円	70円	70円	70円
自己株式取得	500億円	500億円	-	機動的
総還元性向*	180.7%	159.1%	48.5%	-
	114.8%			

*総還元性向 = (配当金の総額 + 自己株式取得総額) / 当期利益 (親会社帰属)

持続可能な社会の実現へ貢献

アンメット（未充足）
メディカルニーズへの対応

高品質な医薬品の安定供給

医薬品アクセスの向上

■ 持続可能な開発目標（SDGs）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



◆ 第21回 日経アニュアルリポートアワード2018



「優秀賞」を受賞

第一三共グループの経営方針、事業戦略、財務情報に加え、CSR活動を含む当社の様々な活動をご覧いただけます

第一三共IRメールマガジン

一般・患者の皆さま 医療関係者の皆さま 株主・投資家の皆さま 採用情報 会社概要 CSR



社長メッセージ

IRライブラリ

株主・株式情報

個人投資家の皆さま

メールマガジン

決算関連資料

株式情報

医薬品業界について

ニュースリリース配信

その他説明会資料

株主総会情報

第一三共ってどんな会社

IRメールマガジン配信

バリュレポート（統合報告書）

電子公告情報

第一三共のビジョン/経営戦略

バックナンバー

有価証券報告書

株式に関するQ&A

第一三共のがん事業について

株主通信

個人投資家向説明会

IRカレンダー

財務ハイライト

株価・格付け情報

IR情報開示方針

- ◆ IR情報を中心としたウェブサイト更新情報や第一三共についての情報を原則毎月2回お届けします。

- ◆ ウェブサイトからご登録ください！



INDEX

- 【01】：ニュースリリースピックアップ
- 【02】：第一三共からのお知らせ
- 【03】：皆様からの声

2019年8月9日号



第一三共 メルマガ

検索

<https://www.daiichisankyo.co.jp/ir/mail/>

ご清聴ありがとうございました

本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1126 (報道関係者の皆様)

03-6225-1125 (株式市場関係者の皆様)

Email: DaiichiSankyoIR@daiichisankyo.co.jp